

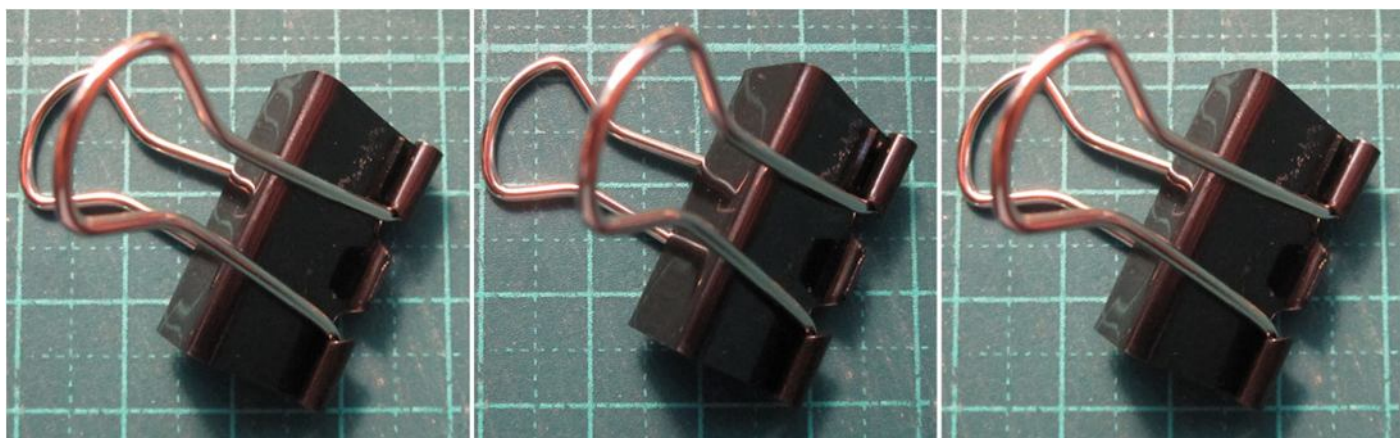
「ステレオグラム (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ステレオグラムは研究の価値がある。簡単に言うと面白い。何が面白いかというと・・・

- ・立体的に見えるはずのない平面が、突然立体的に見える、その一瞬で変わる面白さ。
- ・自分で作った画像に、自分自身の脳がだまされる面白さ。
- ・特別な道具は不要で、普通のコンパクトデジカメだけで、いくらでも探究できる面白さ。
- ・誰でも（子どもでも）画像を作って、試せる面白さ。

まずは、素材を作る・・・つまりステレオグラムを撮影するコツを、自分自身でつかまなくてはいけない。一番手軽な、机上の物体から試してみることにした。読者の皆様も、どれが立体視に適しているか、是非試してみていただきたい。尚、今後掲載するステレオグラムは、同じような3つの画像で構成されている。「平行法」で見る方は右側の2つの画像で、「交差法」で見る方は左側2つの画像で試してほしい。ちなみに、両側の2つの画像は、まったく同じものである。



——交差法—— ———平行法———



——交差法—— ———平行法———

さて、どうだろう。クリップのほうは、うまく立体視できると、劇的に飛び出して見えるはずだ。リモコンのほうは各ボタンが「押せそうなほど」飛び出してくる。私は平行法で見ていたので、リモコンを交差法の2枚で見ると、ボタンが沈んで見えるのも面白い。次回は、風景写真で挑戦してみたい。